

展示期間：2025年9月23日(火)～9月29日(月)
 展示場所：大阪・関西万博会場内フューチャーライフヴィレッジ(FLV)



大阪・関西万博会場内FLV
 (フューチャーライフヴィレッジ展示エリア)

2025年日本国際博覧会協会提供画像を
 加工して作成

フューチャーライフヴィレッジの位置図
 参照：フューチャーライフヴィレッジ | EXPO 2025 大阪・関西万博公式サイト

<https://www.expo2025.or.jp/future-index/future-life/flv/>



Wood Change 2025
 林野庁特設ウェブサイト
<https://rinya-expo2025.maff.go.jp/>

森林大国の日本には、私たちの生活に使える「木」がたくさんあります。そのような「木」に囲まれた生活は、癒やしやリラックスといった心理面だけでなく、免疫アップといった身体面の効果ももたらしてくれます。

また、私たちが悩ませる花粉症問題の解決には、スギやヒノキを使って花粉の少ない苗木に植え替えることが必要です。

木材を暮らしの中に取り入れる「ウッド・チェンジ」は、「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用に繋がります、日本の森林を育てることができます。

日本の木材を活用した様々な製品の魅力を感じていただくため、林野庁は、大阪・関西万博のフューチャーライフヴィレッジにおいて、「ウッド・チェンジ」の展示を行います。

詳しくはこちらのウェブサイト上で随時情報を更新していきますのでご確認ください。



木づかい運動で
 ウッド・チェンジ！
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/riyou/kidukai/top.html>

また、木材利用の最新事例を発信する「木づかいシンポジウム2025 in 万博」(9月23日(火曜日) フューチャーライフヴィレッジ内ステージ)の詳細は順次、林野庁ウェブサイトに掲載します。

ウッドデザイン賞受賞作品 フューチャーライフヴィレッジで展示予定!



monacca



TANZAKU Lamp



木硯



木製フイングラスIPPONGI

シリーズ

大阪・関西万博

「Wood Change 2025」を開催



福島の復興に向けた新たな広葉樹活用の 取組を大阪・関西万博でPR

2011年3月11日に発生した東日本大震災から14年が経過しましたが、東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射性物質の影響が森林には未だに残っていることをご存じでしょうか。

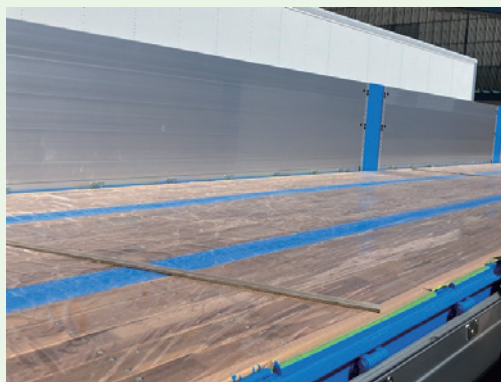
例えば、原木しいたけの栽培に必要な原木は、コナラ等の広葉樹林を約20年サイクルで伐採・更新することにより生産されます。震災前、福島県は全国有数のしいたけ等原木の生産地でしたが、放射性物質の影響により現在でもほとんど出荷できない状況が続いていることから、原木となる広葉樹林の伐採・更新が進んでいません。

このため、林野庁では、伐採・更新による循環利用が図られるよう、計画的な原木林の再生に向け、2021年度から福島県、福島県森林組合連合会及び福島県木材協同組合連合会等と連携して「里山・広葉樹林再生プロジェクト」を推進しています。

本プロジェクトでは、計画的な伐採・更新を進めるとともに、伐採後のぼう芽（伐採した切り株から発生する新芽）更新木の放射性物質濃度の調査を行うほか、伐採した広葉樹の利用拡大等に関係者が連携して取り組んでいます。この利用拡大の取組の一つとして、伐採したコナラ



コナラ原木林



トラック荷台に架装したコナラ床板



コナラ床板の製造

等を新たにトラック荷台の床板として活用する取組を進めています。トラック床板への活用は、大阪市に本社を置くト



万博での福島県産コナラの展示

ラック床板の大手メーカーである越井木材工業株式会社のほか、北海道運輸株式会社及び日本フルハーフ株式会社のご協力を得て進めています。床板に使用するコナラは、床板に加工する前に放射線量を測定して問題ないレベルであることを確認しています。また、コナラはトラックの床板として十分な強度性能があり、今後の利用拡大が期待されています。現在、大阪・関西万博のよしもとパビリオンにおいて、福島の復興支援の観点から床板に製品化する前のコナラ板をフェンスとして設置し、復興支援のPRを行っています。万博に行かれた際はぜひお立ち寄りください。



子どもたちの憧れに —フォレスターの恩送り

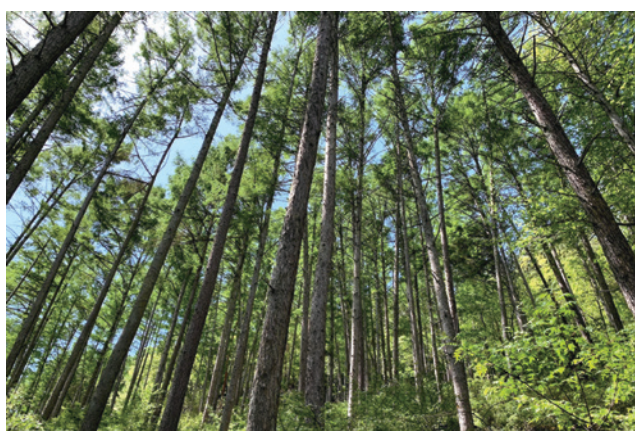
日本版フォレスターを子どもたちの憧れの仕事に

私は長野県林業大学校を卒業し、地元森林組合でプランナーとして11年ほど勤務したのち、現職場に移り、フォレスターとして活動しています。2023年に森林総合監理士の資格を取得しました。

フォレスターになった動機は、二つあります。一つ目はフォレスターを子どもたちの憧れの職業にしたいというものです。表題で敢えて「日本版」としたのはドイツや北欧諸国と比較することです。それらの国では、森林は生活と密接につながっており、それに関わるフォレスターは社会的信頼と地位が高く、憧れられる専門職だと聞いています。日本の現状では残念ながら子どもたちにフォレスターだと伝えてもピンとこないかもしれません。子どもたちに認知されるくらい、森林林業が身近な存在になるように活動をしたいと考えています。二つ目は、やるからには業界のプロフェッショナルになりたいというものです。フォレスターとして、関係各所の情報や人脈を

持つことで、困りごとがあれば頼ってもらえるような地域林業の核になりたいと考えています。

未熟なフォレスターですが、後述の展望を持つて活動に励み、林業関係者の地位向上と森林への興味関心や感謝の心を普及していきます。



成熟したカラマツ林

民間フォレスターの視点を林務行政に落とし込む

林務行政は民間と行政の連携が大切です。民間のフォレスターは全体の約8%しかいないため、我々が現場の意見を上げることが重要です。



主伐後のカラマツ林

私が活動する長野県では、成熟した森林資源の活用と再造林がテーマになっています。

主伐・再造林の機運が高まる一方で、森林の育成段階に行う間伐は縮小傾向にあります。このような状況を加味して、森林資源のより適切な更新に向けて、森林経営計



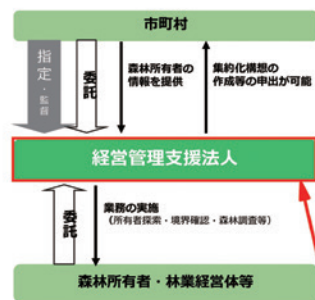
再造林後のカラマツ林

株式会社 小山林産 林業部
部長 北川 聖司

市町村の事務負担の軽減（経営管理支援法人の指定制度の創設）

市町村が専門的知見・ノウハウをもつ法人（経営管理支援法人）を指定し、そのサポートを受けられる仕組みを作ります。（指定するかしないかは任意。また、複数の法人を指定可能。）

■ 制度のイメージ



■ 経営管理支援法人の対象

- ・ 都道府県や複数の市町村が共同で設置している公益法人等
- ・ 森林の集積・集約化に専門的知見を有する森林組合連合会等の林業団体
- ・ ICT技術を活かして林業のスマート化に取り組んでいる企業 等

■ 市町村の制度運用を支援する取組の例

公益社団法人とちぎ環境・みどり推進機構（栃木県）

- ・ 森林情報収集、境界確認、林分調査、路線図形調査、地籍図の検討等、市町の技術的な業務を支援。



GNSSを活用した境界調査

一般社団法人やましごと工務所（徳島県美馬市・つるぎ町など）

- ・ 森林経営管理方針の検討、意向調査、境界確認、集積計画・配分計画作成、市町森林経営管理事業の監理等の市町村の業務を補助。



空中写真から森林資源状況を解析

出典：森林経営管理法等の一部改正に係る説明会 資料抜粋

この部分等でフォレスターとしての活動を模索

18

課題 フォレスター活用されていますか？

私が活動している近隣の市町村ではフォ

画の認定要件に主伐・再造林面積を加えることを期待しています。
林業事業体のプランナーの視点があるからこそ、フォレスターとして現行の制度によりよい提案ができると考えています。持続可能な森林資源の活用を前提に、制度と現状にミスマッチがあれば、それを議論し、時代に合わせた運用に向けて現場の声を届けていきたいと考えています。

レスターの活用がほとんどできていません。フォレスターの活用が進んで行くには、例えば、森林経営管理法の新たな仕組みで、フォレスターが在籍する法人を支援法人にし、制度を円滑に活用することや、林業・木材産業を巻き込み、木材の安定供給をするための公有林を含めた森林整備計画の作成などの役割を担うことなども一案と考えます。行政・林業界・地元をつなぐ橋渡し役として、気軽に活用できる体制が整えばフォレスターとしての働き甲斐があります。



22世紀に向けた森林ゾーニング

今後の活動 22世紀に向けた森林ゾーニング

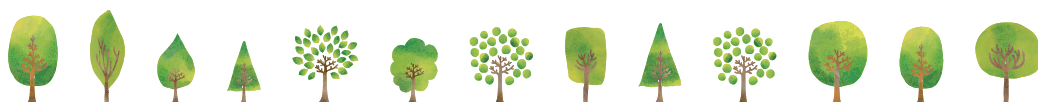
戦後から22世紀への中間地点が今です。この時代に、次世代に向けた森林ゾーニングをしておくことは必要不可欠です。後世に「あの時にしっかりと林業を造り込んでくれてありがとう」と言ってもらえるよう、この時代のベストを尽くす必要があります。

その一環で、私の住む上田市では「22世紀に向けた森林ゾーニング（仮称）」を策定する計画が始まります。県、林業普及指導員、市・民間のフォレスターが次回更新の市町村森林整備計画の策定のために知恵を出し合っています。GIS技術やこれまでの経験をもとに、これからの森林や木材を取り巻く環境の変化や多発する自然災害への備えなどを考慮し、22世紀に向けた多様な森林づくりを目標にします。

森林の更新を図っていくこの時代に、次の世代にどんな森林を残していくべきかを考え、行動に移すことが今の世代の責任です。

最後に ペイフォワード

この言葉は、自分が受けた恩を他の誰かに渡し、善意を広げる考えや行動のことを意味します。まさに林業にピッタリの用語です。今、緑豊かな森林で仕事が出来ているのは、先代の活動の賜物。この受けた恩をしっかりと後世につないでいけるよう「ペイフォワード」を合言葉に、フォレスター活動を通して林業に貢献したいと思っています。



国有林野事業の取組

奥能登地区における 民有林直轄治山事業の取組

近畿中国森林管理局 石川森林管理署

①はじめに

令和6年能登半島地震では、石川県を中心に多くの方々が犠牲になりました。心から哀悼の意を表するとともに、今もなお仮設住宅での生活を余儀なくされる皆様に心からお見舞いを申し上げます。

石川森林管理署では、地震発生後、直ちに石川県庁ヘリエゾン（現地連絡員）を派遣し、情報収集にあたりとともに、ヘリコプターによる調査のほか、関係機関と調整し応急対策などに必要な資材を提供しました。調査が進む中で、家屋や道路の周辺に大量の土砂や流木が堆積していること、治山施設にも被害が及んでいることが明らかになりました。

②復旧対策

かつて経験したことがないような大きな崩壊地をはじめ、復旧に高い技術を要する被災箇所が多く見られたことから、令和6年2月、石川県知事から国に対し、直轄事業の実施に関する緊急要望が行われました。これを受け、令和6年3月には、珠洲市

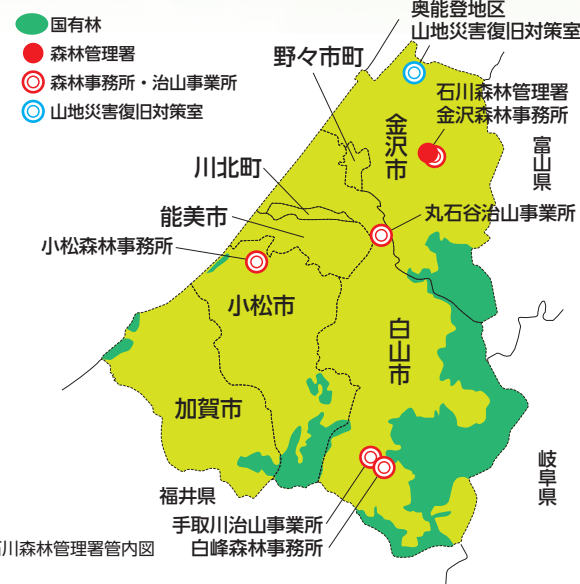


奥能登地区山地災害復旧対策室メンバー（金沢市）

及び輪島市における対策工事について、林野庁が主体的に実施することが決まり、同年4月には「奥能登地区山地災害復旧対策室」を、金沢市にある石川県農林総合研究センター内に開設しました。
対象となる事業地は、金沢市から約140キロ離れた能登半島の先端部に位置する珠洲市の2区域、その西隣に位置する輪島市の4区域、計6区域です。いずれの区域でも、山の下方に家屋や道路が近接し、地震で流出した土砂や流木によって家屋が倒壊するなど甚大な被害を受けていました。



民有林直轄事業地 位置図



管内概要

所在地 石川県金沢市朝霧台二丁目21番

区域面積 418,620千ha（県面積）
うち森林面積 278,429千ha（県土の約68%）
うち国有林面積 33,887千ha（県森林面積の約12%）

関係自治体 4市（金沢市、小松市、加賀市、白山市）

石川森林管理署管内の国有林は県南部に位置し、富山県、岐阜県及び福井県境の標高が高い地域のほか、海岸部に点在しています。国有林の69%はブナ、ミズナラ等からなる天然林、25%は岩石地や草地となっており、スギが多くみられる人工林は6%となっています。

多くが保安林、国立公園、国定公園などに指定され、国土保全、水源涵養などの公益的機能の発揮に対する期待が大きく、白山森林生態系保護地域など5箇所を保護林に設定し、生態系の維持などに取り組んでいます。また手取川の上流では治山工事により土砂の流出を防止するなど、保安林機能を高める取組を行っています。

③ 奥能登豪雨

被災地の生活再建に向けた応急対策が進みつつあった9月下旬、追い打ちをかけるように豪雨が奥能登を襲い、家屋や道路などに甚大な被害が生じ、多くの尊い命が失われました。

当署の事業地においても、地震で崩れた山の斜面に堆積していた土砂が流出し、住宅地を埋め尽くすほどの被害が生じたり、地震後に設置した大型土のうが大量の土砂に覆われたりした被害箇所が見られまし



崩壊土砂と重機の埋没(珠洲市大谷町)



埋没した大谷郵便局(珠洲市大谷町)

た。その一方で、地震の応急対策で設置した土のうが、道路への土砂流出を防ぐなどの効果をもたらした箇所もありました。

当署では、豪雨後速やかに被害状況を把握するためのヘリ調査を実施するとともに、大型土のうやブロックを用いた土砂の流出を防ぐための施設を設置しました。また、人が立ち入ることが困難な箇所では、ヘリコプターを活用して倒木の回収や、緑化を目的とした空中播種も実施しました。

④ 地域と連携した取組

(1) 関係機関との情報共有

災害を通じて、地域と連携した取組の必要性が一層高まり、関係機関との情報共有を積極的に進めました。特に被害が大きかった珠洲市大谷町では、道路などインフラの復旧が急務となり、機会があるごとに関係する機関と、進捗や課題などの情報共有を図ることを通じて、復旧に向けた取組を円滑に進めることができました。



被災後(珠洲市大谷町)



応急対策完了(珠洲市大谷町)

(2) 住民説明会

工事を進めるにあたって地域の理解と協力を得るため、対策室開設当初から令和7年6月にかけて住民説明会を合計20回実施しました。工事の内容、期間などを丁寧に説明する中で、住民からは、生活道の安全確保や、稲作への水の影響などについて要望等が寄せられる一方、「早く自宅に戻りたい」など、日々重なる思いや切実な声も耳にしました。



住民説明会(珠洲市大谷町)



住民説明会(輪島市海士町)

⑤ おわりに

同じ年に地震と豪雨という二つの大きな災害に見舞われ、風光明媚な奥能登地域の姿は一変しました。元の姿に戻るには長い年月を要すると見込まれる一方で、人口減少が予想以上のスピードで進む中、安心して故郷に戻っていただくための環境づくりが急務となっています。

全国各地の森林管理局から派遣されている職員の知識・技術・経験を活かし、奥能登地区山地災害復旧対策室のモットーである「地域に寄り添う」を念頭に、一日も早い復旧・復興に向け、全力で取り組んでまいります。



小泉農林水産大臣による現地調査(輪島市三井町興徳寺)

令和7年度こども霞が関見学デーを開催しました!

霞が関の各府省庁等が連携して、夏休み期間中に子供たちが広く社会を知る機会を提供し、政府の施策に対する理解を深めてもらう「こども霞が関見学デー」を開催しました。

農林水産省では、8月6日と7日に会場参加プログラムを実施し、2日間で延べ6,939人の来場があり、多くの子供たちに参加いただきました。林野庁は、子供たちに森林・林業・木材産業の面白さや大切さを知ってもらうために、4つの会場プログラムを実施しましたので、その様子を紹介します。

木とあそび・木を学んで樹木博士になろう!

講師に森林インストラクターを迎え、森林の働きや樹種ごとの特徴等について、楽しみながら学べるプログラムを実施しました。実際に葉や枝の標本を観察して、樹種を当てるテストに挑戦してもらい、合格した約400人の子供たちに、子ども樹木博士の認定証を授与しました。



木のスプーンを作ろう

国産のヒノキをやすりで削って、木のスプーンを作るワークショップを開催し、2日間で60人以上の子供たちがスプーンの製作に挑戦しました。子供たちは職員に削り方のコツを教わりながら、真剣な表情で削っていました。

木のスプーン➡



おやまの小さななかまたち～食べておいしいきのこたち～

原木から生えているしいたけや、菌床栽培したえのきたけ・ぶなしめじを展示し、自由に触れてもらったほか、竹から作った炭や洗剤なども展示し、特用林産物と触れ合えるプログラムを実施しました。子供たちは「このきのこ本物かな?」と、最初は恐る恐る触れていましたが、慣れてくると他のきのここと触り比べて思い思いの感想を述べていました。



木材の「今」を知ろう

木を薄くスライスしたツキ板やCLTを使った製品等の展示を行ったほか、合板の製造過程を学べる絵本の配布を行いました。「どうやって作るんだろう?」などと話しながら、木製品を手にとって、興味深そうに眺める親子もあり、多くの子供たちに木製品の魅力を知ってもらいました。

また、6月27日から特設ウェブサイト「マフ塾2025」にて、オンラインプログラムを公開しています。林野庁では、「[木づかい]しよう～木を使うのは良いこと?～」と題して、森林の環境援助団のサザエさんとの対談動画などを掲載しています。当日ご来場いただけなかった方や、農林水産省に興味のある方は、是非ご覧ください。



「木づかい」しよう
木を使うのは
良いこと?



3. 木づかい動画～サザエさんに聞いてみよう～

【サザエさん】森林の環境援助団のサザエさんについて、森林の環境援助団のサザエさんに聞いてみよう!



https://www.maff.go.jp/j/kids/kodomo_kasumi/2025/content/mokuzai.html



「ミス日本みどりの大使」とは

公益社団法人国土緑化推進機構Webサイト「みどりの大使」
(<https://www.green.or.jp/promotion/midorino-taishi/entry-1679.html>)

みどりの大使が行く!



2025

ミス日本
みどりの大使

佐塚 ころこ

チェーンソーの扱いを学ぶ

みなさんこんにちは。ミス日本みどりの大使の佐塚ころこです。

先日、地元の長野県にて「林業技術者養成講習（伐木造材課程）」を受講し、チェーンソーの扱いについて3日間みっちり学びました。座学と実技の両方を経験することで、チェーンソーの正しい扱い方や林業に携わる方々の苦勞を肌で感じることで、大変貴重な時間となりました。

安全第一を心がけて

講習1日目の座学ではチェーンソーの構造や安全な使い方、山の中で出遭う危険な生物についての講義を受けました。実際に作業を行う時には、作業中の小さな確認の漏れが大きな事故やリスクにつながってしまう事例を学びました。特に印象に残った

頭では理解していても…

のは「安全を最優先に考えなければならぬ」という講師の方の言葉です。チェーンソーは一歩間違えれば重大な事故につながる道具であり、常に緊張感を持って扱う必要があることを強く意識しました。また、特に注意が必要な木処理の仕方、一つ一つの手順を確認し、漏れなく作業をすることで、リスク防止に繋がることわかりました。座学を通じて、安全に配慮しようという気持ちが高まりました。

講習2日目からの実技では、実際にチェーンソーを手に取り、丸太を切る作業に挑戦しました。最初に感じたのは、チェーンソーの重さです。見た目以上に



林業に携わる方々の安全を願って

3日間を通じて林業に携わる方々への尊敬の念がより一層募りました。山での作業は体力的にも精神的にも厳しいですが、森を守り、木を利用しながら次の世代へ自然をつなげていくという責任感のもとに働いている姿は、本当に尊いです。また、実技講習ではたくさん汗をかきました。夏の暑い中で作業をする皆様の苦勞を身をもって感じる事ができました。皆様が悲惨な事故に遭わないことを心から願い、望んでいます。

この3日間の学びは、単にチェーンソーを使えるようになるためのものではなく、安全意識を高め、自然と人との関わりを考える貴重な機会となりました。みどりの大使の活動の中でチェーンソーが登場したら、今回の経験を思い出しながら、実際にチェーンソーを使っている人の思いを、より深いところまで掘り下げて、お話を伺いしたいです。

チェーンソー講習を通して学んだことは一生の財産となりました!



ずっしりしており女性の私には大変に感じました。比較的軽いと言われる電動チェーンソーで実技に挑みましたが、長時間の作業は体力的にも大きな負担となること分かりました。さらに、まっすぐに切ることの難しさにも直面しました。頭では理解していても、実際に刃を入れるとわずかな力加減や姿勢の乱れで切り口が傾いてしま、思うようにいきません。講師の方に指導いただきながら、繰り返し練習して少しずつ感覚を掴んでいきました。

私がこれまで経験した視察活動において、林業従事者の方々が正確かつ効率的に作業されていることを思い出し、その技術と経験の深さに、敬意の気持ちを新たにしました。

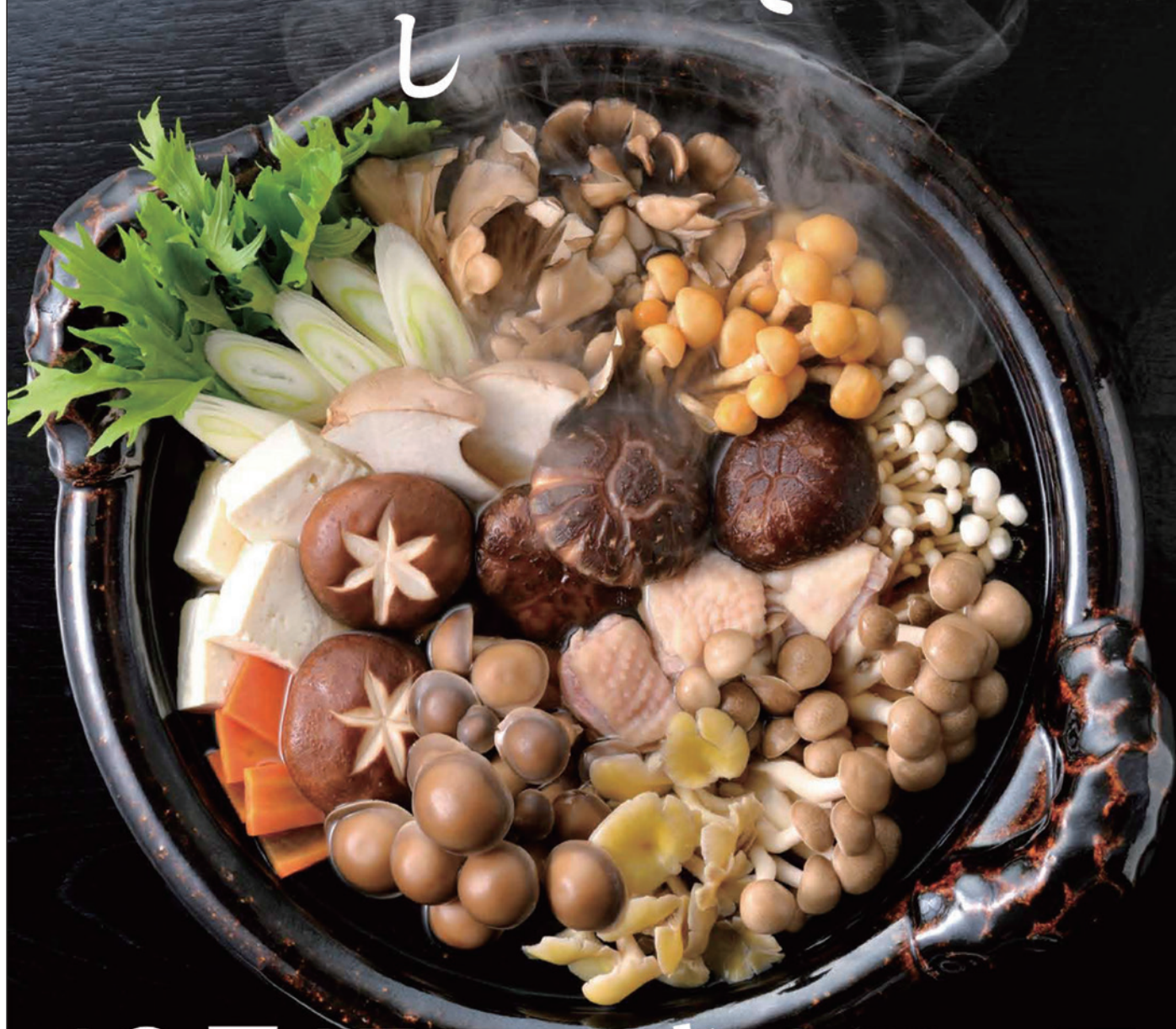
きのこで

きのこ料理のある

おいしい食卓には

幸福な笑顔が集まります。

おもてなし



10月15日はきのこの日

林野庁

日本特用林産振興会